

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0870700283		
法人名	社会福祉法人 芳香会		
事業所名	グループホーム穂の香		
所在地	茨城県結城市七五三場365 (電話) 0296-20-9033		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成21年2月20日

## 【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 5人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.6人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1階建ての 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年9月1日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	
年齢	平均 87.5 歳	最低 67 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	芳香会病院、猿島厚生病院、ファミリー歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは「一人ひとりの生活を大切にし、一人ひとりの思いにこたえる」という独自の理念のもと、職員一人ひとりが日々の支援に真摯に取り組んでいる。  
職員は家族に「生活状況のお知らせ」を毎月送付して利用者の様子を伝えている。  
また、その生活状況のお知らせは、主治医に利用者の健康状態を把握してもらうため受診の際に活用している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>その人らしい暮らしを続けるための楽しみごとや気晴らしの支援については、利用者の外出機会を多くつくるなど改善を図っている。 重度化や終末期における方針については、引き続き検討が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員と共に自己評価や外部評価の意義や目的を理解し、出た課題をサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。 会議では外部評価や利用者の状況、余暇活動等の報告のほか、ホームの諸問題について話し合い改善に努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を設置するとともに苦情解決第三者委員のポスターを掲示し、意見や要望などが出しやすい環境づくりをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの立地条件から地域との交流は少ないが、ホーム行事の花見会や納涼祭で地域の老人会の人々と交流している。 運営推進会議で委員に働きかけ、自治会など地域の行事に参加できるよう工夫することを期待する。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者や家族、地域の方々に信頼されるホームを目指し「一人ひとりの生活を大切にし、一人ひとりの思いにこたえる」というホーム独自の理念を掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を記した自己管理手帳を活用するとともに毎日のミーティング時に唱和し、全職員が理念を共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの立地条件から地域との交流は少ないが、ホーム行事の花見会や納涼祭で地域の老人会の人々と交流している。	○	運営推進会議で委員に働きかけ、自治会など地域の行事に参加できるよう工夫することを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員と共に自己評価や外部評価の意義や目的を理解し、出た課題をサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。 会議では外部評価や利用者の状況、余暇活動等の報告のほか、ホームの諸問題について話し合い改善に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課に運営状況を報告したり、困りごとの相談や課題解決の話し合いをするなど連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りでホームの活動状況を知らせたり、利用者の様子を「生活状況のお知らせ」として毎月家族に報告している。 なお、「生活状況のお知らせ」は主治医に利用者の健康状態を把握してもらうため、受診の際に活用している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するとともに苦情解決第三者委員のポスターを掲示し、意見や要望などが出しやすい環境づくりをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の活性化を促す意味で同法人グループ内の異動はあるが、その際は事前に利用者のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	E式人事システム（人事効果システム）を取り入れ、職員各自が「自己管理手帳」を活用しながら自ら目標を立て自己評価の記録をし、段階的な育成が図れるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少ないが、グループホーム協会や市内のケアマネジャー連絡協議会の研修会に積極的に参加し交流している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用契約前に利用者や家族にホームを見学してもらい、職員や利用者とお茶飲みなどでふれあい、安心して利用が開始できるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴を把握し、食事の準備や片付け、清掃、洗濯物たたみなど利用者のできることを自然に引き出し、共に支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの日々の暮らし方の意向を把握し、ケアカンファレンスで話し合いながら支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良い生活ができるよう利用者や家族の意見を聴くとともに、家族や担当職員、計画作成担当者がカンファレンスを開き介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の介護委員会の意見や業務日誌などを基に定期的に見直している。 利用者の状態に変化が生じた場合は、家族の意見やかかりつけ医の助言を得て随時見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医受診には家族が同行しているが、無理な場合は職員が通院支援をしている。 利用者からの要望については、家族と相談して対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診の際は利用者の状態を記載した「生活状況のお知らせ」を家族に渡し、適切な受診ができるよう医師と連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応に関しては、事前に家族と話し合い相互理解をしているが、ホームとしての方針マニュアルを作成するまでには至っていない。	○	重度化や終末期の対応について方針マニュアルを作成するとともに、事前に家族と意思確認の文書を取り交わすことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関する研修会を全職員で受講し共通認識をしている。 居室の名札を表示しなかったり、面会簿を利用者毎の用紙にするなどプライバシーの確保に努めている。 利用者の書類等は適切に保管や処分をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で散歩の好きな人は散歩に出たり、好みのおやつを食したり自由に過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けやテーブル拭きなど利用者ができることを職員と共に行い、ランチマットなどで楽しい食卓の雰囲気を出すなど、職員は支援しながら一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を固定せず基本的には週3日間隔としている。 利用者の状態により安全のため2人体制で入浴支援をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴は把握しているが、一人ひとりに柔軟に支援するまでには至っていない。	○	日々のケアを振り返り利用者一人ひとりの持ち味を活かした支援が望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月開催されている近隣の縁日に外出会を設けて職員と一緒に出かけ、地域の人々と交流しながら買い物などを楽しんでいる。 また、広いホームの敷地内にベンチを置き、季節の花などを眺められる環境づくりをしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけず利用者が自由に出入りできるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災教育と単独の避難訓練を毎月実施している。 消防署立会いのもと、敷地内の養護老人ホームと合同の避難訓練を毎年実施している。 飲料水や非常食を3日分備蓄している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材購入業者に週間の献立作成やカロリー計算を委託している。 職員による検食を行うとともに、一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録し利用者の状況を職員間で共有している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は一般家庭と同じ構えで入りやすい雰囲気になっている。 対面式の厨房がある食卓兼居間は電動開閉の天窗があり、快適な共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は使い慣れた家具やテレビ、壁飾りなど好みのものを居室に設置している。 ホームが用意している備え付け程度だけの部屋もある。	○	居心地よく過ごせるよう家族等の協力を得るなどで利用者の個性や家庭の雰囲気ができる配慮を期待する。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。